

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-130049

(43) 公開日 平成11年(1999) 6月18日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>  
B 6 5 D 5/38  
5/50  
// B 6 5 D 85/20

識別記号

1 0 1

F I

B 6 5 D 5/38  
5/50  
85/20

A

1 0 1 Z

Z

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願平9-299175

(22) 出願日 平成9年(1997)10月30日

(71) 出願人 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72) 発明者 衣川 信義

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社  
社研究所内

(72) 発明者 世代 文彦

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社  
社研究所内

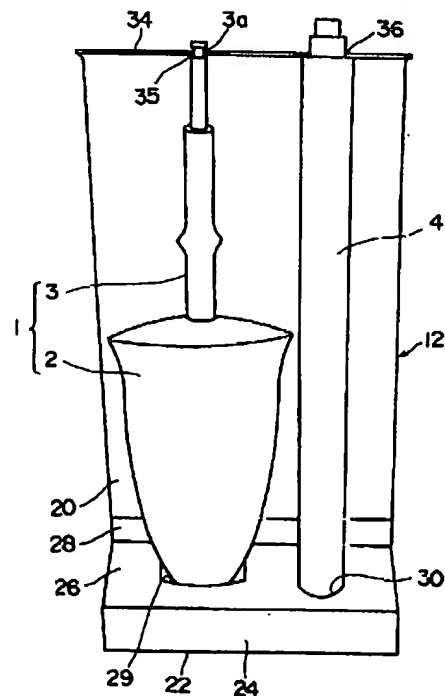
(74) 代理人 弁理士 笹島 富二雄

(54) 【発明の名称】 包装補助具

(57) 【要約】

【課題】 シート取付用の先端先細りの弾性ヘッド2と基端側指掛け部3を持つ掃除具本体1、及び、これとは別体の柄4を収納保持する。

【解決手段】 包装補助具12は、底板20の一端に連設された側板22と、この側板22に天板24を介して連設されて側板22の内側に間隔をもって対向する押さえ板26と、底板20の他端に連設された側板34とを備える。そして、押さえ板26に、弾性ヘッド2の先端部を収納する切込み部29と、柄4の一端部を保持する孔30とを設ける。また、他方の側板34に、基端側指掛け部3を係止する切欠き35と、柄4の他端部を係止する孔36とを設ける。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】シート取付用の先端先細りのヘッドと基端側指掛け部とを持つ掃除具本体、及び、該本体とは別体の柄を収納するための包装補助具であって、

1枚の板材を該板材の長尺方向に折り加工して形成されて、底板と、底板の両端側に設けられた2つの側板と、少なくとも一方の側板の側に設けられ該側板より内側に位置して該側板に間隔をもって対向する押さえ板と、を有し、

一方の側板の側の押さえ板に、前記ヘッドの先端部を収納する切込み部と、前記柄の一端部を保持する保持部とを設けると共に、他方の側板の側に、前記基端側指掛け部を係止する係止部と、前記柄の他端部を係止する係止部とを設けたことを特徴とする包装補助具。

【請求項2】前記押さえ板が前記底板の一端側に前記側板を介して連設されることを特徴とする請求項1記載の包装補助具。

【請求項3】前記押さえ板の端縁が前記底板上に固定されることを特徴とする請求項2記載の包装補助具。

【請求項4】前記一方の側板が前記底板の一端側に前記押さえ板を介して連設されることを特徴とする請求項1記載の包装補助具。

【請求項5】前記押さえ板の切込み部に、これに連なって前記ヘッドの両側部に沿って延びるフラップを有することを特徴とする請求項1～請求項4のいずれか1つに記載の包装補助具。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、シート取付用の先端先細りのヘッドと基端側指掛け部とを持つ掃除具本体、及び、該本体とは別体の柄を収納するための包装補助具に関する。

## 【0002】

【従来の技術】近年、長尺な柄の先端に、先端先細りのヘッドを持つ掃除具本体を取付け、このヘッドに清掃用シートを取付けて、清掃に用いるようにしたものがある。このような先端先細りのヘッドを持つ掃除具を販売等する場合、箱状容器に収納するのが一般的であるが、箱内でのガタツキを防止するため、保持用の包装補助具が必要となる。

【0003】このような包装補助具としては、例えば実公昭53-22183号公報に示されるように、被収納物の両端を係止する凹部を形成するように、箱状に組み立てたもの（内箱）が知られている。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前記公報に記載のような組み立て体は、底板の四方に展開される構造で、四方から組み立てるため、組み立て工程が複雑となり、コストアップにつながるという問題点があった。また、特に先端先細りのヘッドを持つ掃除具の場

合、ヘッドの先端を当接させて係止すると、ヘッドの先端が折れ曲がって変形し、クセになるため、商品性が低下するという問題点があった。

【0005】本発明は、このような実状に鑑み、シート取付用の先端先細りのヘッドと基端側指掛け部とを持つ掃除具本体、及び、該本体とは別体の柄を収納するための包装補助具として、極めて簡単な構造でありながら、ヘッドの先端の変形を確実に防止することのできるものを提供することを目的とする。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】このため、請求項1に係る発明では、1枚の板材を該板材の長尺方向に折り加工して形成されて、底板と、底板の両端側に設けられた2つの側板と、少なくとも一方の側板の側に設けられ該側板より内側に位置して該側板に間隔をもって対向する押さえ板と、を有し、一方の側板の側の押さえ板に、前記ヘッドの先端部を収納する切込み部と、前記柄の一端部を保持する保持部とを設けると共に、他方の側板の側に、前記基端側指掛け部を係止する係止部と、前記柄の他端部を係止する係止部とを設けたことを特徴とする。

【0007】このような構成であれば、1枚の一般的には紙材である板材の両端部分を折り込んでいくだけで組み立てることができ、極めて簡単に製造できる。また、押さえ板の切込み部が掃除具本体のヘッドを受け入れ、ヘッドが仮に側板方向へ移動した場合には、切込み部の縁部によりヘッドを側方から係止して、ヘッドが側板に当たらないようにするので、ヘッドの先端の変形を確実に防止できる。

【0008】また、柄の両端部が押さえ板と他方の側板とに係止されて、押さえ板と他方の側板との間隔が一定以下にならないように規制でき、この状態で掃除具本体の基端側指掛け部が他方の側板に係止されるので、掃除具本体のヘッドと押さえ板の切込み部との位置関係がずれるおそれもほとんどなく、安定的に収納できる。請求項2に係る発明では、前記押さえ板が前記底板の一端側に前記側板を介して連設されることを特徴とする。

【0009】請求項3に係る発明では、請求項2に係る発明を前提として、前記押さえ板の端縁が前記底板上に固定されることを特徴とする。請求項4に係る発明では、請求項2に係る発明とは異なり、前記一方の側板が前記底板の一端側に前記押さえ板を介して連設されることを特徴とする。請求項5に係る発明では、前記押さえ板の切込み部に、これに連なって前記ヘッドの両側部に沿って延びるフラップを有することを特徴とする。

## 【0010】

【発明の効果】請求項1、請求項2又は請求項4に係る発明によれば、1枚の板材をその長尺方向に折り加工するだけで、極めて簡単に構成できる一方、ヘッドの先端の変形を確実に防止することができるという効果が得られる。請求項3に係る発明によれば、押さえ板の端縁が

底板上に固定されることで、確実に部材のセットが行われて、型崩れが防止され、取扱いも容易となる。

【0011】請求項5に係る発明によれば、押さえ板の切込み部にヘッドの両側部に沿って延びるフラップを有することで、ヘッドの側方から係止する際に、面で受けることができる。

【0012】

【発明の実施の形態】以下に本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。図1は本発明に係る包装補助具の展開図であるが、この説明に先立って、本発明で包装対象とする掃除具について説明する。図2は本発明で包装対象とする掃除具の使用状態を示す斜視図である。

【0013】本掃除具の本体1は、先端先細りの軟質ポリウレタンゴム製の弾性ヘッド2と、その基端側に設けられた硬質プラスチック製のロッド状指掛け部（ロッド部）3とからなる。柄4は、本体1とは別体で、硬質プラスチック製の多重の筒体により伸縮自在に構成され、その先端の取付孔5に本体1側の指掛け部3の端部を挿入して取付けるようになっている。尚、柄4の基端側には、家屋壁部の吊り具等にかけることができるように、孔6が形成されている。

【0014】そして、弾性ヘッド2には、埃を吸着するように特殊加工を施した不織布製の清掃シート7を取付けるようになっている。清掃シート7は、図3に示すように、長方形の不織布を2枚重ね合わせた後、弾性ヘッド2の外形形状に合わせて、熱溶着することにより、溶着部8の内側に、弾性ヘッド2に被せることができるように、袋部9を形成してある。また、溶着部8の外側には、放射状に多数の波状の切込みを形成することにより、はたき状のひらひら部10を形成してある。

【0015】図4は掃除具の包装体の分解組立図である。包装に際しては、本体1と柄4とを分解し、また柄4は縮めた状態とする。清掃シート7は、5枚程度を1まとめにして折り畳み、ビニール袋に収納して、シートバック11とする。そして、本発明に係る包装補助具12に、シートバック11をセットし、更に掃除具の本体1と柄4とをセットする。そして、包装補助具12ごと外箱13に入れて、包装する。

【0016】次に本発明に係る包装補助具12について詳しく説明する。包装補助具12は、1枚のボール紙をその長尺方向に折り加工して形成するもので、図1は展開図である。すなわち、長方形の底板（背板）20の長手方向の一端（下端）側に、折り線21を介して連なる側板22と、この側板22に折り線23を介して連なる天板24と、この天板24に折り線25を介して連なる押さえ板26と、この押さえ板26に折り線27を介して連なる脚板28とが設けられている。

【0017】ここで、押さえ板26には、弾性ヘッド2の先端部を受け入れるための切込み部29と、柄4の基端側を挿入保持するための保持部としての孔30とが形

成されている。尚、孔30には、柄4の基端側を挿入し易くするために、図10（展開図の変形例）に示すように、部分的もしくは全体に放射状の切込み30'を設けたりすることも可能である。

【0018】また、前記切込み部29内に、脚板28と連なる挿入片31が形成され、底板20には、この挿入片31を挿入する切込み32が形成されている。一方、底板20の長手方向の他端（上端）側には、折り線33を介して連なる側板34が設けられている。この側板34には、指掛け部3に係止するための係止部としての切欠き35と、柄4の先端側を挿入係止するための係止部としての切欠き付きの孔36とが形成されている。尚、切欠き35には、図10（展開図の変形例）に示すように、戻り防止片35'を設けることにより、輸送中等の落下を防止することも可能となる。また、孔36は、切欠きを設けなくてもよく、また完全に抜けてしまっている孔とすることもできるが、図10（展開図の変形例）に示すように、部分的な切込み36'を入れて、突き出して折り曲げることにより孔を形成する構造とすることも可能である。

【0019】組立に際しては、底板20の一端側は、図1の展開状態から、図5に示すように、折り線21で折って、側板22を起し、折り線23で折って、天板24を底板20と平行にし、折り線25で折って、押さえ板26を側板24と平行にし、折り線27は逆に折って、脚板28を底板20上に位置させ、脚板28に連なる挿入片31を底板20の切込み32に挿入することにより、図6に示す状態にする。加えて、図10（展開図の変形例）に示すように、底板20上に別の弧状の切込み32'を予め形成しておき、この切込み32'を起こして、脚板28の端縁に係止させることで、より確実に係止することも可能である。このようにして、押さえ板26の端縁、すなわち脚板28及び／又は挿入片31を底板20上に固定することで、型崩れが防止され、取扱いも容易となる。

【0020】一方、底板20の他端側は、折り線33で折って、側板34を起す。これにより、全体としては、包装補助具の組立後の平面図及び正面図を示す図7のごとくとなる。図8は包装補助具の掃除具収納状態での平面図及び正面図、図9は斜視図である。

【0021】包装補助具12に掃除具の本体1及び柄4をセットする際、これに先立って、底板20上にシートバック11を置く。本体1については、弾性ヘッド2の先端部を押さえ板26の切込み部29内に挿入し、基端側指掛け部3の小径部3aを側板34の切欠き35に係止させる。また、柄4については、基端側を押さえ板26の孔30に挿入して嵌合させ、先端側を側板34の孔36に挿入して嵌合させる。

【0022】そして、この状態で、包装補助具12ごと、外箱13に収納する。外箱13は紙製で、包装補助

具12の大きさに合わせて形成するが、長手方向の大きさは、底板20の長手方向より大きく、一方の側板22から、他方の側板34より突出する柄4の先端部までの長さとしてある。このような包装により、押さえ板26の切込み部29が弾性ヘッド2を受け入れ、弾性ヘッド2が側板22方向へ移動した場合には、切込み部29の縁部により弾性ヘッド2を側方から係止して、弾性ヘッド2が側板22に当たらないようにするので、弾性ヘッド2の先端部の変形を確実に防止できる。

【0023】また、柄4の両端部が押さえ板26と他方の側板34とに係止されて、押さえ板26と他方の側板34との間隔が一定以下にならないようにして弾性ヘッド2の先端が側板22に当たらないように規制でき、この状態で本体1の指掛け部3が他方の側板34に係止されるので、本体1の弾性ヘッド2と押さえ板26の切込み部29との位置関係がずれるおそれもほとんどなく、安定的に収納できる。

【0024】従って、図9に示すように、包装補助具12を立てた状態にしても、弾性ヘッド2の先端の変形を確実に防止できる。次に本発明の実施の他の形態について説明する。図11は展開図、図12は組立状態の要部斜視図である。この例では、切込み部29内の左右に折り線41、41を介して連なるフラップ42、42を形成してある。

【0025】従って、押さえ板26上のフラップ42、42を押込むことにより、これらのフラップ42、42は弾性ヘッド2の両側部に沿って延び、弾性ヘッド2を面で受けることができ、弾性ヘッド2の両側部の変形もより確実に防止できる。この場合、挿入片31が無くなるので、脚板28は接着剤等により底板20上に固定してもよいが、必ずしも固定する必要はなく、更に脚板28を省略してもよい。

【0026】以上の実施形態では、底板20の一端側の側板22に天板24を介して押さえ板26を連設しているが、天板24を省略し、側板22と押さえ板26とが底板20の一部を底辺とする三角形をなすようにしてもよい。更に、以上の実施形態のように、押さえ板26が底板22の一端側に側板22を介して連設されるようにする他、図13及び図14の実施形態、又は図15及び図16の実施形態に示すように、一方の側板22が底板20の一端側に押さえ板26を介して連設されるようにしてもよい。

【0027】図13は展開図、図14はこの場合の掃除具収納状態での斜視図である。この例では、底板20の一端側にこれに連ねて押さえ板26を形成し、この押さえ板26に連ねて外側に天板24を介して側板22を形成してあり、このようにしても同様の効果が得られる。図15は展開図、図16はこの場合の掃除具収納状態での斜視図である。

【0028】この例では、底板20の一端側にこれに連

ねて押さえ板26を形成し、この押さえ板26に連ねて外側に斜め下方に延びる側板22を形成し、この側板22に連ねて脚板28を形成してあり、このようにしても同様の効果が得られる。但し、この場合には、押さえ板26と側板22との間隔を十分にとれないことがあるので、側板22にも、押さえ板26の切込み部29と対応する切込み部29'を設けるとよい。

【0029】尚、以上の実施形態では、底板22の両端側の側板22、34のうち一方の側板22の側にのみ押さえ板26を設けたが、他方の側板34の側にも押さえ板を設けて、この押さえ板に係止部としての切欠き35及び孔36を形成するようにしてもよい。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明に係る包装補助具の展開図

【図2】 本発明で包装対象とする掃除具の使用状態を示す斜視図

【図3】 清掃シートの平面図

【図4】 掃除具の包装体の分解組立図

【図5】 包装補助具の組立過程の要部斜視図

【図6】 包装補助具の組立後の要部斜視図

【図7】 包装補助具の組立後の平面図及び正面図

【図8】 包装補助具の掃除具収納状態での平面図及び正面図

【図9】 包装補助具の掃除具収納状態での斜視図

【図10】 本発明の実施の他の形態を示す包装補助具の展開図

【図11】 本発明の実施の他の形態を示す包装補助具の展開図

【図12】 図11の形態における包装補助具の組立後の要部斜視図

【図13】 本発明の実施の他の形態を示す包装補助具の展開図

【図14】 図13の形態における包装補助具の掃除具収納状態での斜視図

【図15】 本発明の実施の他の形態を示す包装補助具の展開図

【図16】 図15の形態における包装補助具の掃除具収納状態での斜視図

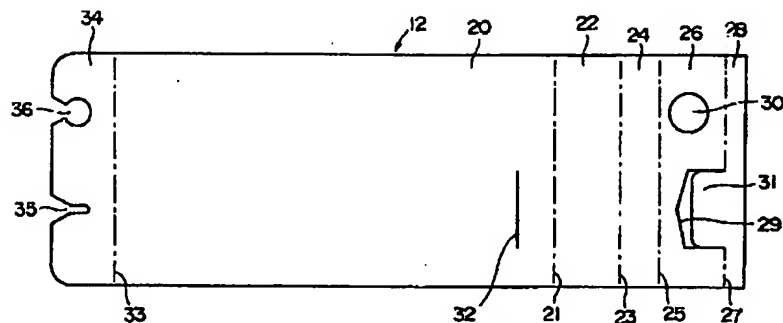
#### 【符号の説明】

- 1 掃除具の本体
- 2 弾性ヘッド
- 3 指掛け部
- 4 柄
- 7 清掃シート
- 11 シートバック
- 12 包装補助具
- 13 外箱
- 20 底板
- 22 側板
- 24 天板

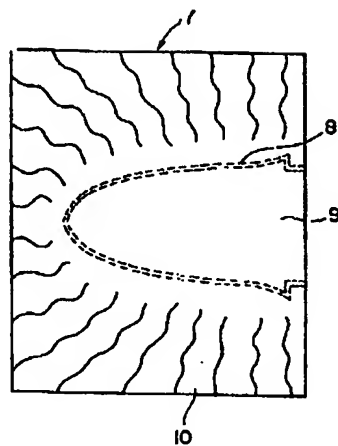
26 押さえ板  
28 脚板  
29 切込み部  
30 孔（保持部）  
31 挿入片

32 切込み  
34 側板  
35 切欠き（係止部）  
36 孔（係止部）  
42 フラップ

【図1】

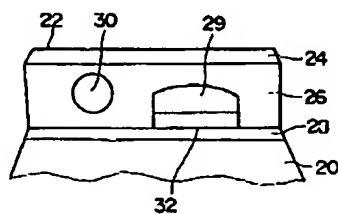
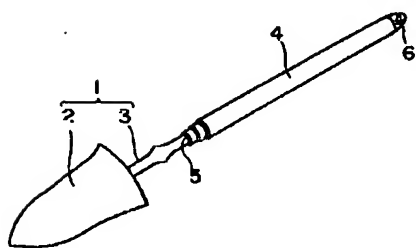


【図3】

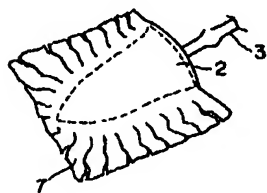


【図2】

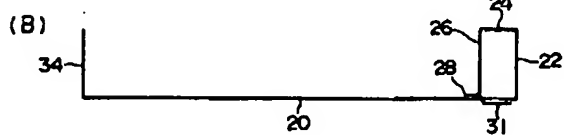
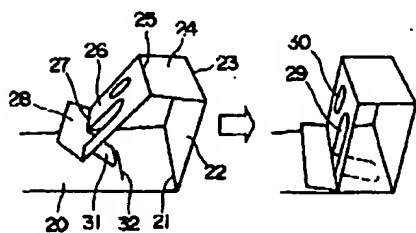
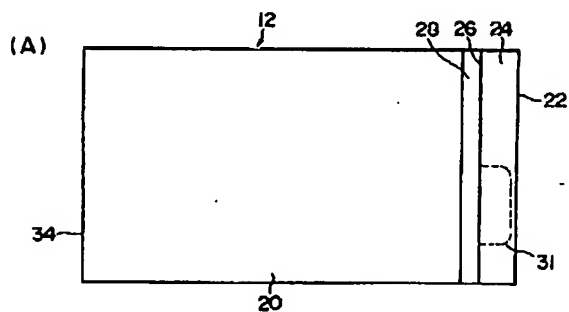
【図6】



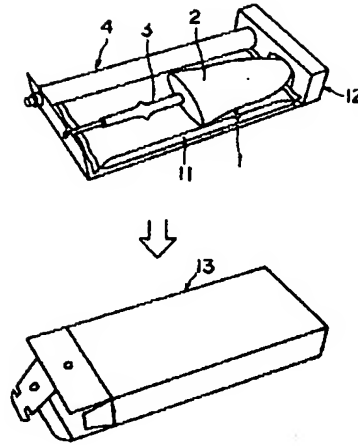
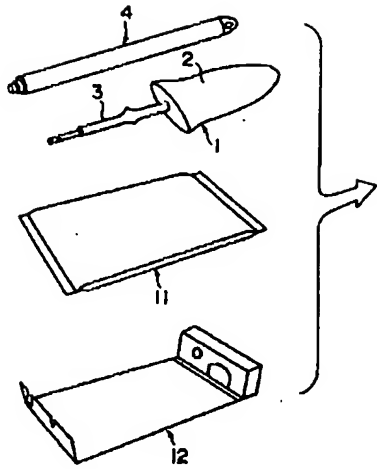
【図7】



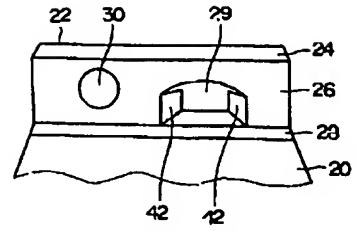
【図5】



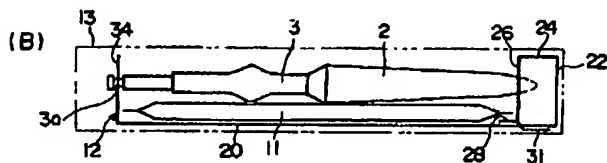
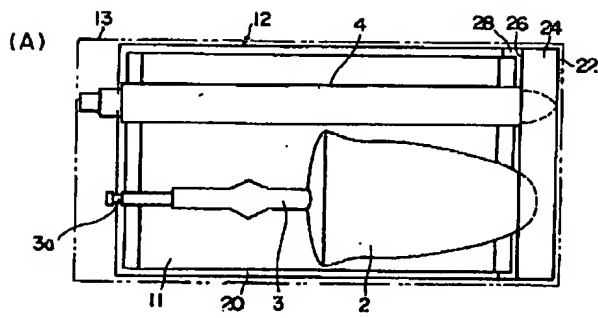
【図4】



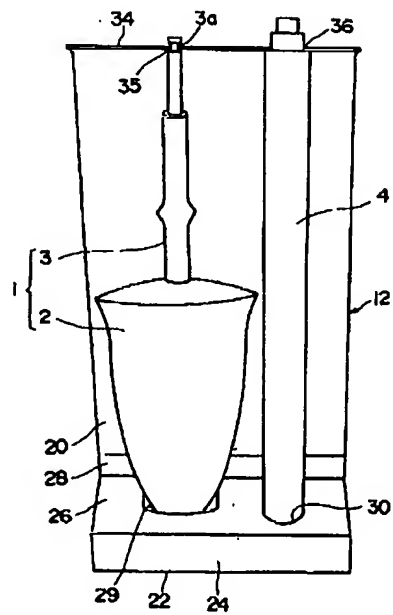
【図12】



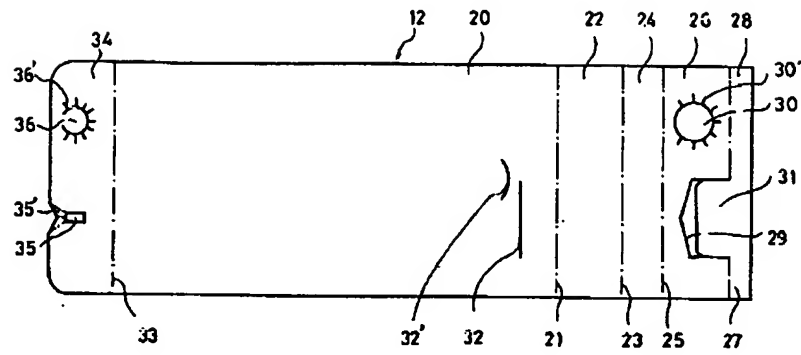
【図8】



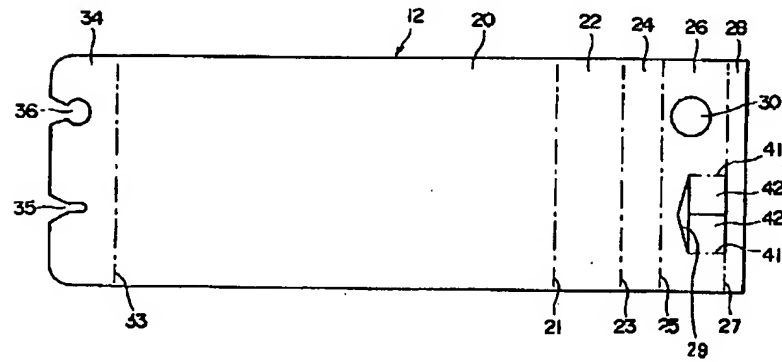
【図9】



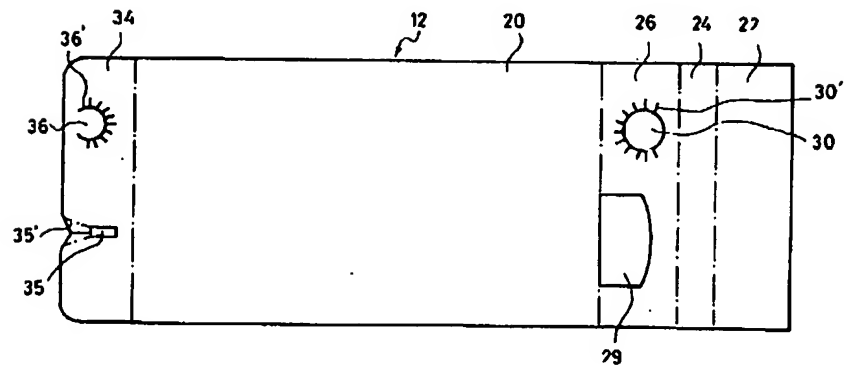
【図10】



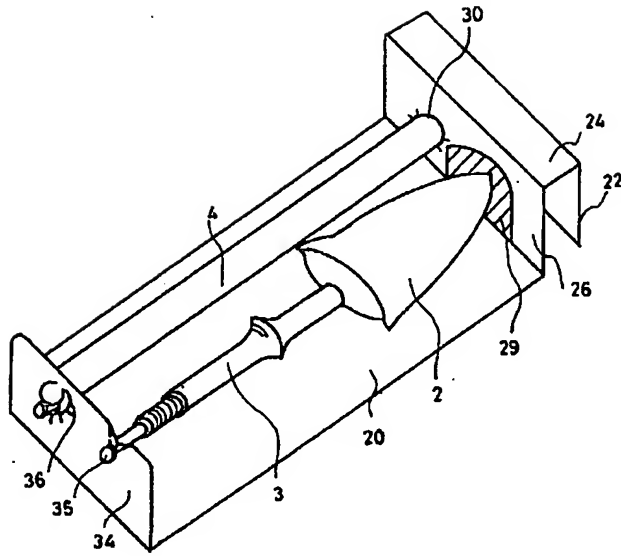
【図11】



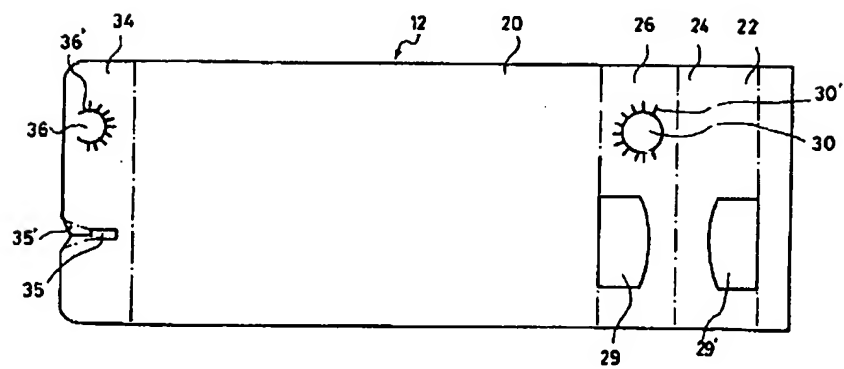
【図13】



【図14】



【図15】





【図16】

